

RVpocket II^r

取扱説明書

RVpocket II^rを快適にお使いいただくための大切な内容が記載されています。お使いになる前によくお読みいただき、また必要なときにはいつでも見る事ができるよう大切に保管してください。

RVpocket II^r の特長

■ブラッシュアップポイント

- SサイズからLLサイズまで、全てのサイズでISO(国際規格)による衝突安全テスト「ISO7176-19 Annex A」に合格しました。
- 車載時固定用フック対応フレームとなりました。
- LLサイズもRVpocket II^r仕様となりました。

■オプション

- 車載時固定用フック受け金具を追加しました。
- 身の回り品や吸引器などを搭載する方にはアンダートレイの装着が可能となりました。
- 姿勢が前に丸くなるお子様には、肩ベルトも装着可能。(S、M、Lのみ)
- 座面にモールドクッションが追加されました。(S、M、Lのみ)
- 開閉式サイドガード

■これまでの基本機能も継承

- ①Sサイズは幅をアップして、S、M、Lサイズには背高さ調節機能を備えたことにより、さらに成長対応がしやすくなりました。
※LLサイズには背高さ調節機構はありません。
- ②インナーパッドのハイトタイプが選べるようになりました。
- ③背張り調節に加え、各種のパッド類による高い姿勢保持機能
(インナーパッドはハイトタイプも選択可能※S、M、Lのみ)
- ④形状の異なるパターンのヘッドサポートから選択可能
- ⑤シート奥行、フットサポート高さ、手押しハンドル高さ調節、ならびに背高調節部品を装備
- ⑥背座シートは、ともに除圧効果があり洗濯もしやすい立体編み物フュージョンの10mm
- ⑦パーツ交換で背座間角度変更が可能(105度or115度)
※95度が基本設定
- ⑧身体のそばからしっかりサポートできるトランクサポートベルトI型、II型
(オプション)



目次

■ 安全にお使いいただくために	P1・2
■ 各部の名称	P3
■ 製品構成	P3
■ オプション部品	P3
■ 使用前点検	P3
■ 各部の取り扱い	P4・5・6・7・8
■ 開き防止ベルトの取り扱い	P9
■ 開き防止ベルトの使用方法	P10
■ 前後足連結バー引っぱりバネ	P11
■ 調節スリングシート	P11
■ 体幹サポートインナーパッドの取り扱い	P12
■ 折りたたみ方・開き方	P13・14
■ アームサポート金具の取り扱い	P15
■ 車いすの取り扱い	P16
■ 車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意	P17・18
■ 車載時固定用フック受け金具の取り扱いについて	P19
■ 仕様・お手入れ・メンテナンス	P20
■ MEMO	P21・22

安全にお使いいただくために



この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

本書記載事項以外の使用はしないでください。



この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。



警告

使い方を誤ると、死亡または重傷を負う可能性が想定される事項です。

- ⊘ 本人を乗せたまま放置しないでください。
- ⊘ はずみをつけたり、つき放したりしての移動(走行)はしないでください。
- ⊘ フレームの折れ・曲がり、ベルト類のやぶれやマジックテープの劣化、各部が破損した状態での使用はしないでください。
- ⊘ ブレーキの効きが弱い、リクライニングの動きがぎこちないなど、各部に不調をかかえたままでの使用はしないでください。
- ⊘ エスカレーターでは使用しないでください。(一般的にも禁止されています。)
- ⊘ 子供に操作させないでください。
- ⊘ 坂道での駐車はしないでください。
(ブレーキの効き具合によっては、ブレーキをかけても勝手に走り出す場合があります大変危険です。やむをえず駐車するときは必ず介助者が付きそってください。)
- ⊘ 座席やバックサポート、フットサポート等に立たせないでください。
- ⊘ 本人を座らせたまま、本体を抱えて移動しないでください。持つ位置によって、各部角度可変機構が急に動いてしまったり、下フレームが急に折りたんで介助者の手をはさむおそれがあり、大変危険です。
- ⓘ 処方上、また安全上必要とされたシートベルト類は必ず使用してください。
(身体状況などによりベルトの使用が困難な場合は処方医や取り扱い業者にご相談ください。)
- ⓘ 乗せ降ろしをするときは必ずブレーキをかけてください。
- ⊘ 火気に近づけないでください。シートが燃えたりフレーム本体が熱くなり、火傷するおそれがあります。
- ⓘ 屋外で使用中に雷が鳴りだしたら、すぐに降りて安全な場所に移動してください。
- ⊘ 改造や分解はしないでください。



注意

使い方を誤ると、人が傷害を負う可能性、または物理的損害が発生する可能性が想定される事項です。

- ⓘ 医師の処方で作られた場合
 - ⊘ 本人以外での使用はしないでください。
(個人用に処方された補装具となりますので、安易に貸し出したりしないでください。)
 - ⊘ 処方目的以外での使用はしないでください。
- ⓘ 段差越えの際のキャスター上げ操作はティッピングバーを利用して正しくおこなってください。誤った方法でティッピングをおこなうと、フレームが破損したり、けがのおそれがあります。(段差越えについては16ページを参照してください。)
- ⓘ エスカレータの出入り口付近(特に手すり巻き取り部)、エレベータ、自動ドア等の付近で使用する際は、はさまれないよう注意してください。
- ⓘ 悪路や坂道では特に注意して操作してください。バランスをくずして転倒することがあります。
- ⓘ 折りたたみおよび開き操作、またリクライニング操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。

- ❗ 製品を持ち運ぶときは、折りたたんだ製品が不用意に開かないように開き防止ベルトでしっかり固定されていることを確認してください。(開き防止ベルトについては9ページを、持ち運びについては10ページを参照してください。)
- ❗ 本人が座った状態でのリクライニング操作は、体重がかかり急に倒れることがありますので十分に注意してください。
- ❗ 周辺に小さなお子様がいるときは、指や手足をはさむなどして、けがをするおそれがありますので十分に注意して使用してください。
- ❗ 走行する車両内で座席として使用する場合は、この取り扱い説明書の本文(P17~P19)をよく読んで理解し、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において実施してください。
- ❗ 車椅子を車両に固定する際は、車両に設けられた車椅子固定装置を使用してください。事前に車椅子固定装置の取り扱い説明書をよく読んで理解し、正しく使用してください。
- ⊘ 折りたたみ、および開き操作の途中の段階での使用はしないでください。
- ⊘ 座席から身体を乗り出したような姿勢では使用しないでください。
- ⊘ 二人乗りなど多人数での使用はしないでください。
- ⊘ 押し手グリップに重い物を引っ掛けないでください。(後方に倒れることがあります。)
- ⊘ 子供がバックサポートなどにぶらさがらないようにしてください。バックサポートなどに子供がぶらさがったりすると、後方に転倒する可能性があります大変危険です。
- ⊘ 子供の遊び道具として使用しないでください。
- ⊘ 保護者・介助者等が寄り掛かったり、腰掛け・踏み台として使用しないでください。
- ⊘ 調節スリングシートやインナーパッドが不適切な状態での使用はしないでください。
- ⊘ シートを取り外した状態での使用はしないでください。
- ⊘ 気温の差が激しい場所や異常に高温な場所(車中など)に製品を放置しないでください。フレームが傷むばかりでなく、熱くなったフレームで火傷をしたり高温になったシートに座ることで、体調に悪影響をおよぼすことがあります。
- ❗ 本人の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合には直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。
- ❗ 本人の体調が著しく低下しているときは、十分に注意して使用してください。
- ❗ リクライニングなど、角度可変の設定に注意してご使用ください。角度設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 長時間座らせたままにしないでください。時間設定については処方医・医療機関・セラピストに相談・確認の上、ご使用ください。
- ❗ 定期的に処方医・取り扱い業者のチェックを受けてください。
- ❗ からだに合わない状態での使用はしないでください。成長や状態の変化を感じたときは、すみやかに処方医のチェックを受け、適切な指導のもとに取り扱い業者の調整を受けてください。
- ❗ 各部のガタやねじのゆるみ、タイヤのすりへりなどは、思わぬ事故につながる可能性があります。定期的に不具合がないか確かめてください。
- ⊘ 製品をゆすったり、踏んだりなどの乱暴な取り扱い、落したり、たたいたりなど強い力や衝撃を与えないでください。フレームが破損することがあります。
- ❗ 水にぬれた場合、そのままにしておくと部品に錆びが出ることがあります。乾いた布ですみやかに拭きとってください。メカロック・ガスタンパーなどは特に水にぬらさないよう注意してください。
- ⊘ 水中での使用は絶対にしないでください。
- ⊘ 荷物等の運搬に使用しないでください。
- ❗ 保管するときは、湿度の高いところ、雨が降りかかるところを避けて、風通しのよい屋根のあるところで保管してください。

使用を取りやめるときには(不要になったときには)取り扱い業者にご相談ください。

各部の名称



製品構成

			個 数
■基本フレーム			1
■調節スリングシート(背・座)			1
体幹サポート インナーパッド	体幹	左右1対	
	骨盤	左右1対	
座面前方ウェッジ			1
レッグサポート			1
■シートユニット			
背シート		1	
座シート		1	
サイドガード		左右1対	
ヘッドサポート		1	
胸ベルト		1	
腰ベルト		1	

オプション部品

■日よけ	
■キャリパーブレーキ	P8
■転倒防止装置	P8
■アームサポート金具	P15
■テーブル	
■ヘッドサポートI型	
■モールド座面 ※S、M、Lのみ	P8
■アンダートレイ	
■肩ベルト(胸肩ベルトのセット) ※S、M、Lのみ	P7
■トランクサポートベルト I型	P8
■トランクサポートベルト II型	P8
■骨盤サポートベルト	
■背座間角度変更部品	
■車載時固定用フック受け金具	P17～19
■開閉式サイドガード	

使用前点検

- ◎ブレーキが正常に効くことを確認してください。
- ◎折りたたんだ状態から、正しく広げられていることを確認してください。
- ◎リクライニング機構やティルト機構がスムーズに作動することを確認してください。
- ◎ネジのゆるみやガタがないことを確認してください。
- ◎前輪キャスターや後輪にヒビ割れや欠け、破損がないことを確認してください。

各部の取り扱い

■ティルトの方法

ヘッドサポートからフットサポートまでが一体となって背座面角度一定のまま、後方に傾きます。

ティルトの角度設定は、レバーで無段階に調節がおこなえます。レバーを握るとロックが解除され、握ったまま任意の角度に設定したら、レバーをはなしてください。その角度でロック(角度固定)できます。



- リクライニングやティルト角度を調節するときは必ず両手で操作をおこなってください。乗っている方の重さで急に傾くことがあり大変危険です。乗っている方の体重を支えるように操作してください。
- ティルトレバーのあそびが多くなってきたら、操作がスムーズにできなくなります。そのようなときはワイヤーの張り調整をおこなってください。
- お子様には絶対に操作させないでください。

■背高さ調節(S、M、Lサイズのみ)

使用される方の成長変化に合わせて、ヘッドサポートパイプの高さ調節がおこなえます。初期設定より30mm間隔で伸ばすことができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

高さ調節をおこなう際は、①サイドガードの織テープを一度緩めて、②背シートと背スリングシート上端、分割式のセンターシートも一旦剥がしてください。③～④高さ調節をおこなった後にスリングシートと背シートを張り直してサイドガードの織テープを引き直してください。

高さ調節をおこなうと、日よけの高さも同時に変わります。



- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。

各部の取り扱い

■押し手高さ調節

ワンタッチでロックと解除の操作がおこなえる「クイックレバー方式」により、押し手の高さと方向を無段階で調節、設定ができます。

クイックレバー

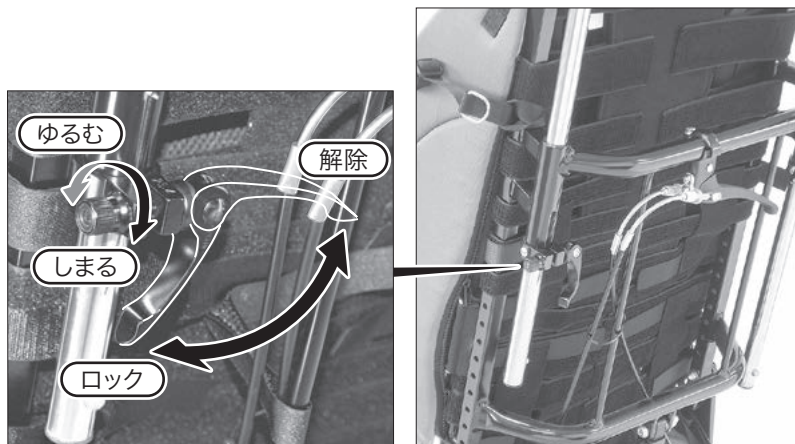
- レバーを水平に開くと解除、90度に曲げ込むとロックします。

※使用前にはロックが十分に効いていることを確認してください。

- 押し手の固定が弱く感じられたときは、クイックレバーの調整が必要です。

①調整するときはまずレバーを開き解除して、反対側のツマミを1/6回転ほど締めこんでください。

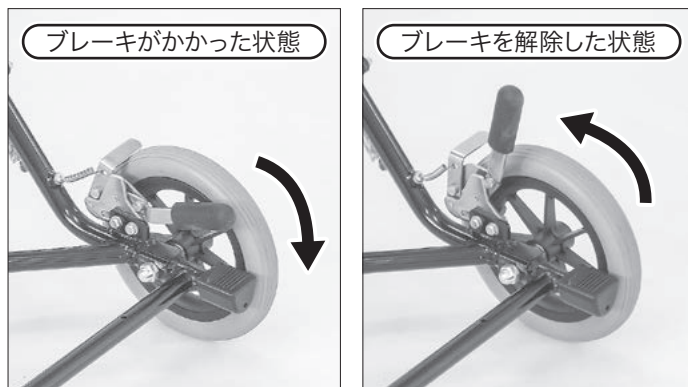
②次にレバーをロックして、押し手の固定力を確認してください。固定力が弱いようであれば固定力が得られるまで、①②の手順を繰り返してください。レバーだけをぐるぐると締めこんでも、押し手を固定することはできません。



- 押し手グリップの固定にはクイックレバーを使用しております。クイックレバーは、開閉操作のワンタッチで強力な固定力を得られますが、一方で締め過ぎによって不具合が生じる場合もあります。正しい調整をおこなってください。
- レバーは下側に向けてロックしてください。後方に向けてロックすると突き出たようになり危険です。

■ブレーキ

停車するとき、乗り降りるときに使用してください。ブレーキレバーを下方に倒すとブレーキがかかります。そこから上方に跳ね上げると、ブレーキが解除されます。



- 乗り降りの際は、必ずブレーキをかけてください。
- 坂道や傾斜のある場所では駐車しないでください。
- ブレーキの効きが弱く感じられる場合は停車中に動き出すことも考えられ危険です、すみやかに取り扱い業者にご相談ください。

■座奥行き調節とフットサポートの高さ調節

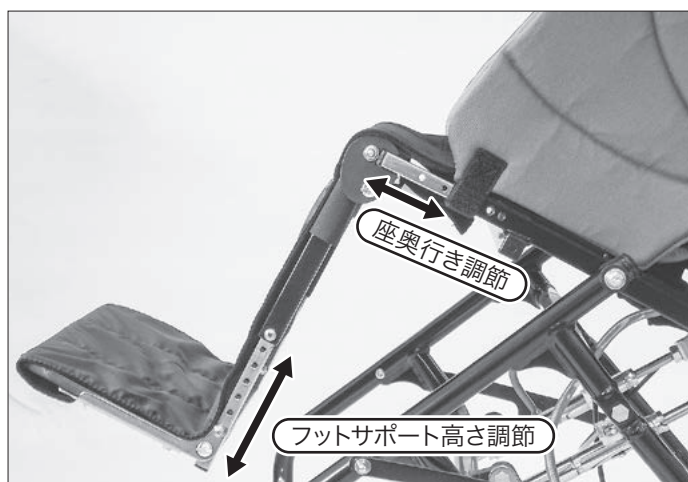
使用される方の大腿長、下腿長に合わせて座奥行きの調節とフットサポートの高さ調節ができます。ボルト・ナットによる差し替え式です。

座奥行き調節は10mm間隔で、フットサポートの高さ調節は10mm間隔で調節できます。

(Sサイズのフットサポートは20mm間隔)



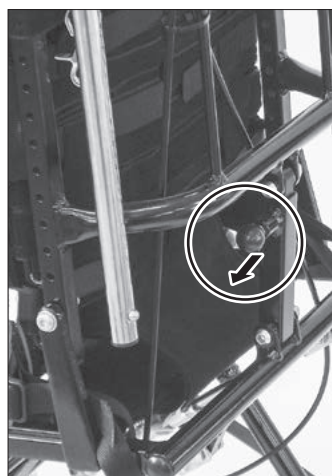
- 高さ調節をおこなう際は、必ず左右の高さを揃えてください。
- 調節をおこなった際は、ボルト、ナットにゆるみ、締め忘れがないようご注意ください。



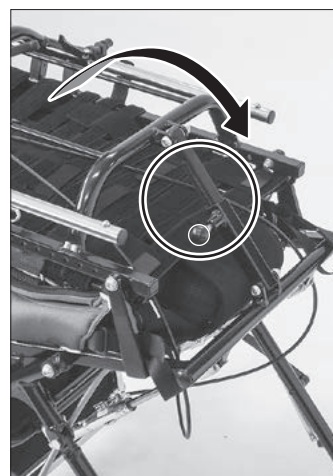
各部の取り扱い

■背折りたたみロック解除

背フレームを折りたたむ際に操作します。背フレーム後面にある解除ノブを引くと、ロックが解除されて背フレームが折りたためます。背フレームを開くだけで、自動的にロックされますが、使用前にはロックがかかっていることを確認してください。また、このロック解除部は背座両面角、角度の設定部品をかねています。部品交換により、背座両面角の変更(注)もおこなえます。



折りたたみ時(ロック解除)



開く時(自動ロック)



- バックサポート開閉時(折りたたみ・上げ時)に手や指をはさまないように、持つ位置に注意して開閉をおこなってください。
- (注)購入後に両面角を変更した場合、サイドガードの一部にたわみが生じます。不具合がみられるときは取り扱い業者にご相談ください。

■サイドガード張り調整

サイドガードのたわみが目立ってきたときに張り加減を調整できます。

サイドガード上方の引きしろ(ループ)をもって、サイドガードの斜め下へ引き直してください。

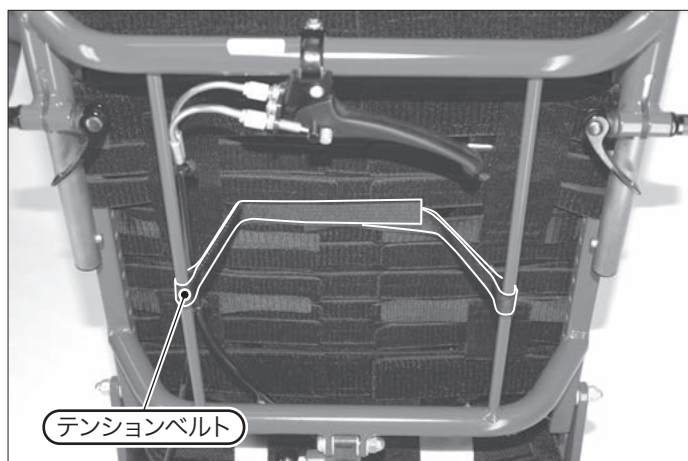
※ループは背シートとスリングシートの上に差し込んでいます。調節時に出し入れしてください。

座フレームの裏側でも左右折り返し式になっております。たわみがないよう、しっかり取り付けてください。



■背スリングシートのテンションベルトについて

RVpocket IIrでは、背スリングシートの余分なたわみを減少させサポートインナーパッドの支持力を向上させる目的で、背スリングシートを後方に引っ張るテンションベルトを装備しています。背スリングシートの調整をおこなう際は、テンションベルトを一度ゆるめて、調整後にはしっかり引き直してください。



■胸・腰ベルトの装着について

処方上必要とされたベルト類は、姿勢保持と安全のために必ず装着してください。ベルトのバックルをカチッと奥までしっかり差込んで、外れないことを確認してください。胸ベルトは、取り付け高さと長さ、腰ベルトは長さの調節ができます。



- ベルトを装着せずに走行すると、転落のおそれがあります。
- 安全のために常にベルトを装着することをおすすめします。

各部の取り扱い

■肩ベルト(胸肩ベルトセット)(オプション)※S、M、Lサイズのみ

基本仕様の胸ベルトの形式に肩ベルトが付いた仕様となります。肩ベルトは、頭部や体幹部が前のめりに屈曲してくる際に姿勢を整えるために用います。肩ベルトの付け外しはバックル式とマジック式の2パターンです。

ベルトホルルの位置で体格や成長に合わせて肩ベルトの高さ調節がおこなえます。

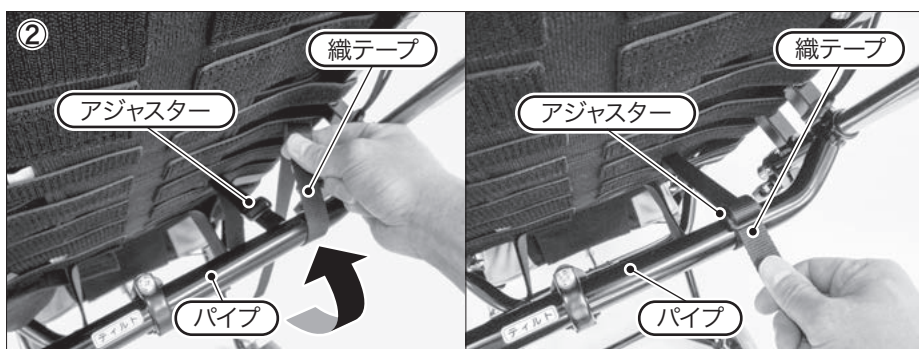


〈取り付け方法〉

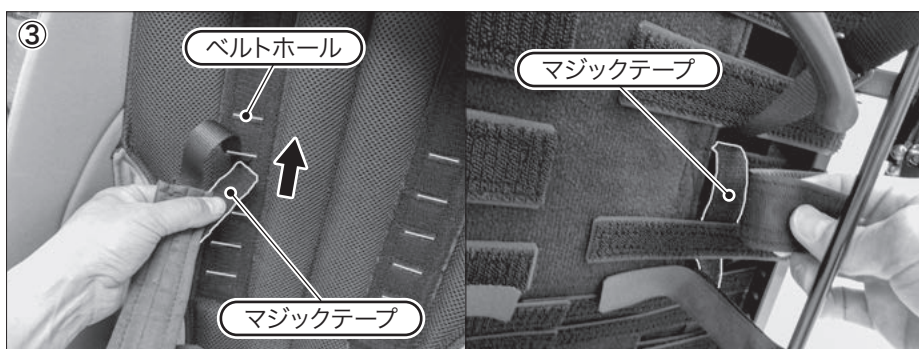
- ①肩ベルト用パッドに織テープを通し、最も肩に近い高さのベルトホルルに織テープを通してください。



- ②背フレーム裏のティルトレバーが付いているパイプに織テープを折り返してアジャスターに通してください。このアジャスターの部分で長さ調節がおこなえます。



- ③肩ベルト用パッドが肩に適切に添う位置になるようパッドから出ているマジックテープをベルトホルルに通して、背シート裏面のスリングシートに貼り付けて位置調整を行ってください。



- 肩ベルトのパッドは、決して外さないでください。ベルト本体の織テープのみでは、材質が硬質のためパッドを装着して当たりを和らげる目的と機能があります。
- 頭が一方向に傾いて首が肩ベルトに擦れてしまうような場合は、姿勢そのものの再調整が必要なことも考えられます。無理に使用を続けずに医療機関にご相談ください。

各部の取り扱い

■トランクサポートベルト(I型、II型オプション)

身体により近い背シートのダブルファスナーから取り出しているため、外側からの胸ベルトよりも高いホールド力を得ることができます。

長さを取り付け高さの調節がおこなえます。(マジック式)

取り付けの際、高さを合わせる目安としては、わきの下に指一本分のすき間を空けるようにしてください。開口部のダブルファスナーは、ベルトにあたるところまで上下からしっかりとじてください。

正面のバックルをカチッと奥までしっかり差し込んで、外れないことを確認してください。

I型は、SS、S、M、ML、L、LLの6サイズ、II型はS、M、Lの3サイズです。



■座シートクッション(オプション)(S、M、Lのみ)

座シートクッションには、臀部の前すべりを防ぐ目的のアンカーサポート(ウェッジ)と脚の開きを支える外転防止パッドが備わっています。クッションの形状でアンカーサポートの機能をもたせていますが、さらに座スリング調節で矢状面方向の調整をおこなうことも可能です。カバーを洗濯する際は後方のファスナーを開けて、必ず中のウレタンクッションを取り出してください。

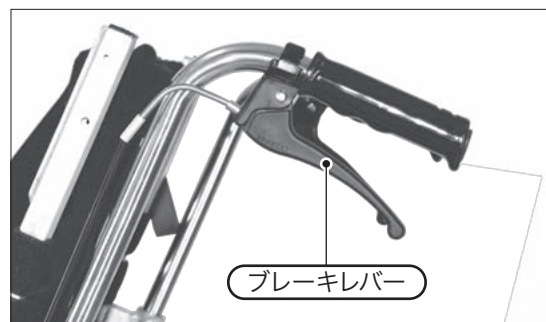


- 決してクッションが入ったまま洗濯しないでください。ウレタンクッション、カバーともに乾かないばかりか、ウレタンクッションそのものが劣化してしまいます。

■キャリパーブレーキ(オプション)

走行中や坂道でスピードを加減するブレーキです。

ブレーキレバーは、両方同時に均等な力で握ってください。片側だけ強く握ると、車いすの向きが急に変わってしまい危険です。



- キャリパーブレーキの効きが弱くなってきたと感じたときは、ブレーキ本体にあるマイクロアジャスターなどでワイヤーの張り調整をおこなってください。

■転倒防止装置(オプション)

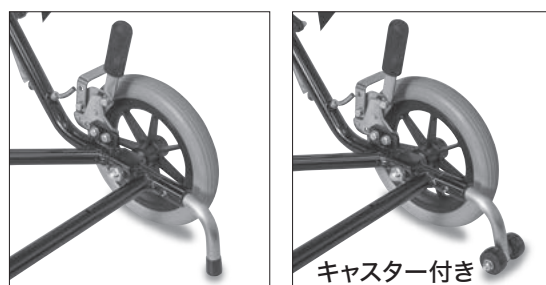
使用されている環境条件(坂道や傾斜があるなど)や、またはティルトしたときの後方安定性に不安定な様子がみられたときは、転倒防止装置の取り付けをおすすめします。

〈取り付け方法〉

ティッピングゴムを外し転倒防止装置を差し込んでください。

プッシュボタンを押しながら、パイプに差し込みます。プッシュボタンがパイプ下側にあけられた穴に飛び出て固定されます。

取り付けた後は、転倒防止装置が確実に固定されていることを必ず確認してください。



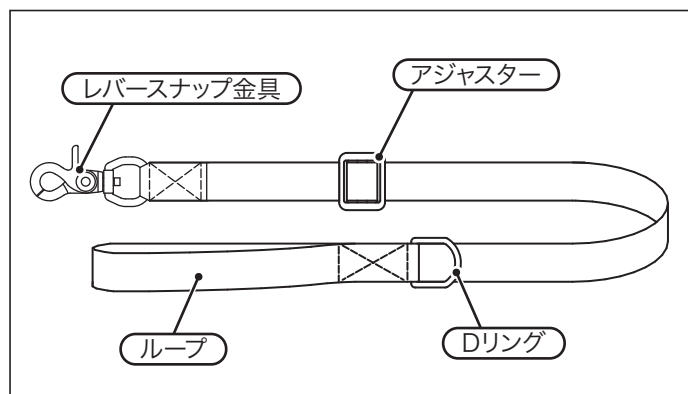
- 転倒防止装置は後方への安全を確保するための装備です。そのためティッピングによる段差越えは困難になります。段差を越えるときは、段差の少ないところを探るか、後ろ向きに後輪から上がるようにしてください。
- 転倒防止装置と地面の間で足などをはさまないように注意してください。

開き防止ベルトの取り扱いについて

開き防止ベルトはRVpocketⅡrを折りたたんだときに、フレームが開かないようにとめておくためのベルトです。取り扱い説明をよく読み、正しくお使いください。

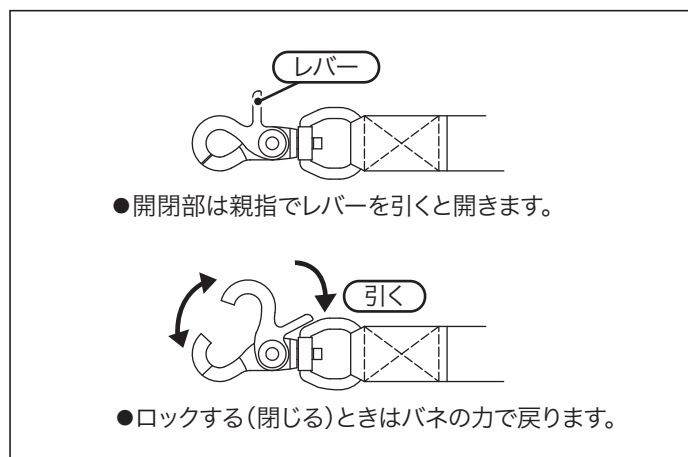
■開き防止ベルト・各部の名称

- 折りたたみ後、手順にしたがってフレームに巻き、レバースナップ金具をDリングにかけて使用します。
- レバースナップ金具の開閉部が正常に動くこと、ロックされることを常に確認してください。
- 折りたたんだときの厚みによっては、アジャスターでベルトの長さを調節してください。



■レバースナップ金具の取り扱い

レバースナップ金具をDリングにかけるときは、レバースナップ金具の根元周辺部を握り、レバーを親指で引いて開いてください。開いたままDリングにかけたら親指を離してください。自動的に閉じてロックがかかります。

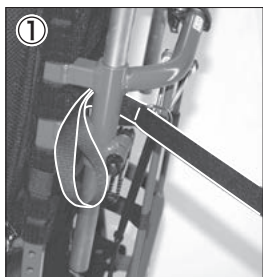


- レバースナップ金具の開閉部で指などはさまないように注意してください。
- Dリングにかけたら、ロックされていることを必ず確認してください。

■バギー本体への取り付け方法

開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。(出荷時は左側に取り付けています)

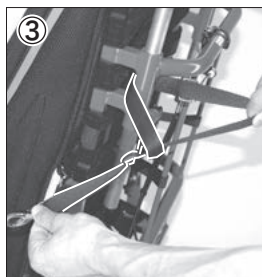
取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



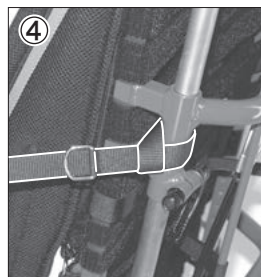
Dリングが正面になるようにループを背パイプ内側から背フレームのスリット(またはスリングの間)に通します。



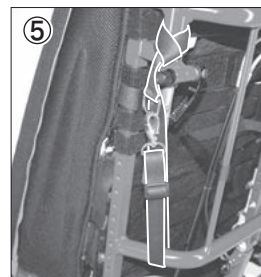
ループにレバースナップ金具をくぐらせてください。



ベルトがねじれないように注意して通してください。



ループのところに余分なあまりやたわみがないようベルトをしっかり引ききってください。



通常の使用(折りたたんだとき以外)ではベルトがぶらつかないようにレバースナップ金具をDリングにかけてください。

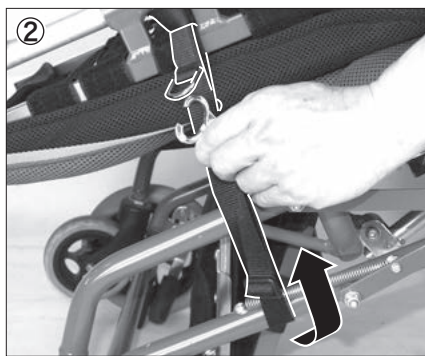


- 開き防止ベルトに搭乗者が手指をからませたり、また周辺の人や物にひっかからないように注意してください。
- メンテナンスやシートの洗濯などにより開き防止ベルトを取り外したときは、必ず取り付け方法の説明にそって取り付け直してください。取り付けたら、折りたたみ操作をおこないレバースナップ金具がDリングにかかることを必ず確認してください。

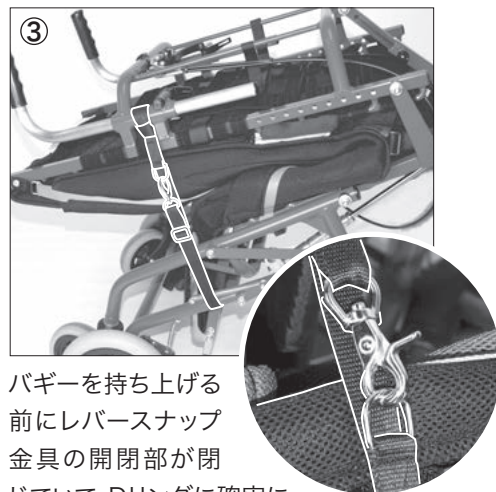
開き防止ベルトの使用方法



① 折りたたんだら、写真のように開き防止ベルトを後足フレームの内側へ通します。ベルトがねじれないように注意してください。



② 後足フレームを巻くようにして折り返し、レバースナップ金具を操作してDリングにかけてください。



③ バギーを持ち上げる前にレバースナップ金具の開閉部が閉じていて、Dリングに確実にかかっていることを確認してください。



- 開き防止ベルトを使用するときは折りたたんだフレーム部、各部で指などをはさまないように注意してお取り扱いください。
- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトを正しくとめて、レバースナップ金具の開閉部が閉じていることを確認してください。
- 開き防止ベルトをとめていなかったり、とめ方が不適切な状態（ベルトの通し方に誤りがある、レバースナップ金具の開閉部が閉じていないなど）では、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。使用方法にしたがって正しくとめてください。
- ベルトおよびレバースナップ金具の損傷や劣化に気づいたときは、すみやかに新品と交換してください。開き防止ベルトが傷んでいると、フレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ、周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。
- 車への積み降ろしなど、抱え上げるときは下記の説明にしたがい十分に注意して取り扱ってください。誤った抱え方をすると持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい、手や指をはさむ・周囲の物が破損するなどのおそれがあり危険です。

■車への積み降ろしなど、抱え上げるときの注意

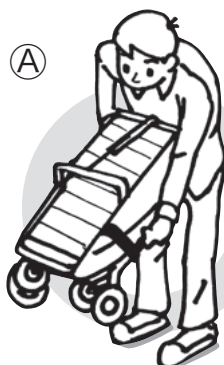
開き防止ベルトは、左右どちらかの背フレームパイプに取り付けます。（出荷時は左側に取り付けています）

取り付け位置は上からおよそ1/3を目安にしてください。バギーを折りたたんだときに、開き防止ベルトを後足フレームの車輪付近でしっかり巻くことができます。



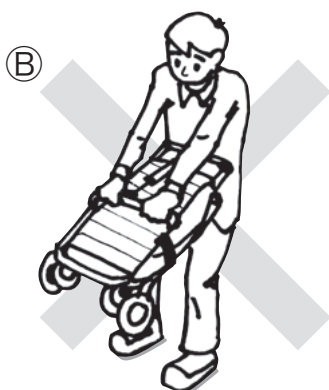
- 自動車のトランク（荷室）に積み降ろしをする際は、以下の点に注意して取り扱ってください。

図①のように、後輪のついている後足フレームをつかんで、下からバギー全体をかかえるようにして持ち上げてください。



○後足フレームを持ち、全体をかかえてください。

図②③のように、背フレームのパイプのみ、もしくは前輪キャスターのついている前足フレームだけをつかんで持ち上げることはしないでください。持ち上げた瞬間の衝撃でフレームが不用意に開いてしまい手や指をはさむおそれがあり危険です。



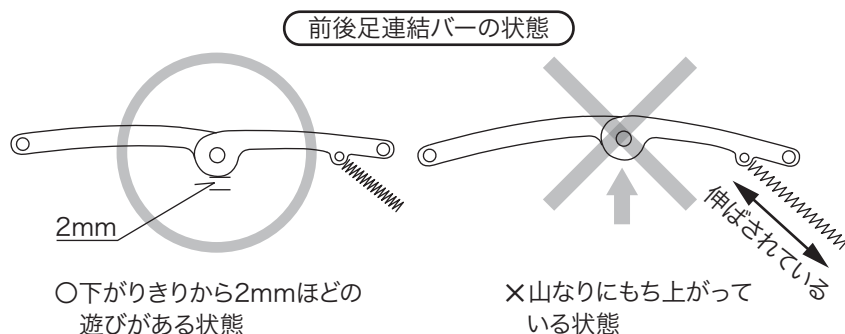
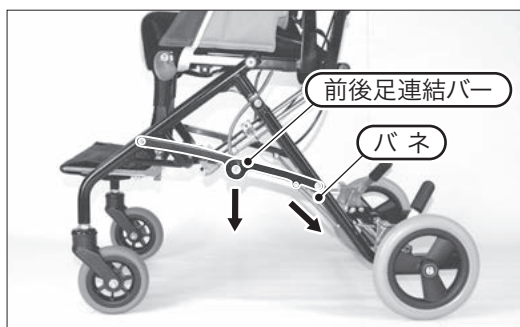
×背パイプのみを持っている。



×前足フレームのみを持っている。

前後足連結バー引っ張りバネについて

本製品は、使用(走行)中に、下フレーム(前・後足フレーム)が折りたたまないように、前後足連結バーをバネで引く構造になっています。このバネは、安全のために重要な部品であるため、簡単に外れてしまわないよう、十分に注意して組み立てておりますが、使用期間中のバネそのものの変化や何かに引っかけてしまったなどにより、バネが伸びきっていたり、外れたり、または折れたりすることが考えられます。使用前には、バネの状態(伸び過ぎや破損)とバネが外れていないことを確認してください。バネの破損などに気付いたときは、すぐに取り扱い業者にご連絡ください。



以下の5点について、点検してください。

☐ 前後足の連結バーの中心が、ちゃんと下がりきっているか？

(前後足連結バーがしっかりとつばた状態になっていることを必ず確認してください。
《前足、後足フレームを前後から押して連結バーの中心部が下がること。》
中心部が上に持ち上がっていると、前後足フレームが折りたたんでしまうため大変危険です。)

☐ バネは2本とも、きちんとついているか？

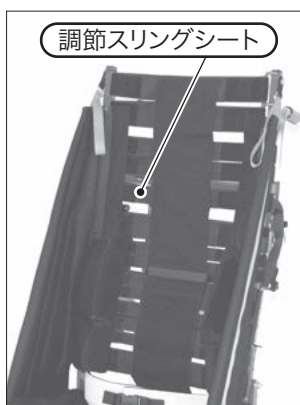
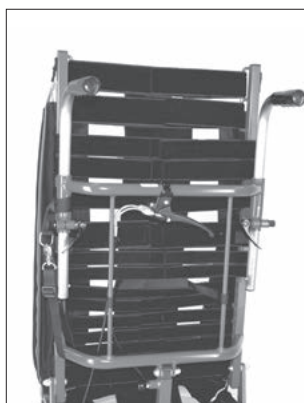
☐ バネの取り付け部分が伸びて、はずれそうになっていないか？

☐ バネが部分的に伸びきっていないか？

☐ 前後足連結バーを指で持ち上げたとき、バネが下方向にしっかり引っばっているか？

❗ 前後足連結バーを持ち上げるときは、中心より外側の部分を扱ってください。中心付近は指をはさむおそれがあります。

調節スリングシートについて



帯状のスリングベルト(マジック式)の張り加減を調整することで、使用される方の身体特性に個別に対応することができます。

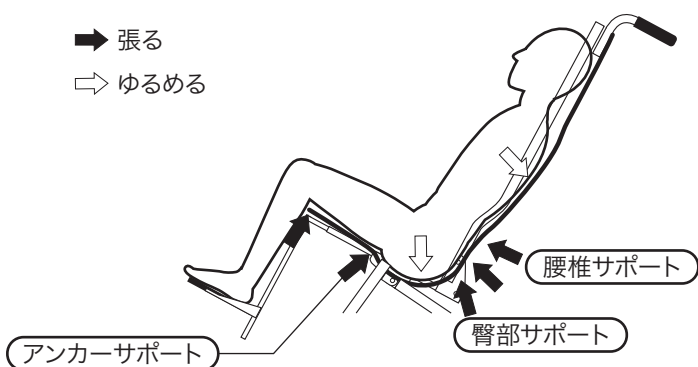
矢状面に加え、水平面の調整もすることが可能です。

よりこまかく調整がおこなえるようスリングベルトの幅も細く、背スリングを2分割しています。

調整例

➡ 張る

⇨ ゆるめる



バックサポートは、①骨盤の前後の傾き(バックサポート下部)②体幹の前後の傾き(背もたれ中央～上部)③腰部の支え(バックサポート腰部)を考慮して調整します。また、左右の張りを変えることができるので、側弯による背中のろっ骨隆起などの非対称にもある程度対応できます。

座面は、坐骨前部から大腿部はしっかりと張って、臀部(坐骨周辺)をゆるめてお尻を包み込むようにして、臀部を安定させ前すべりを起きにくくするのが一般的です。



● 長期間使用するうちにスリングシートの伸びが生じることがあります。このようなときはシートの張り具合を再度調整してください。

体幹サポートインナーパッドの取り扱いについて

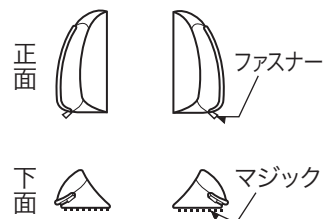
調節スリングシートの張り具合で、骨盤が前方に滑り出しにくくなるように、また体幹部をバックサポートに預けていられるように矢状面のサポートを調節します。調節スリングシートの水平面でのカーブの形状により、側方からのサポートがある程度得られますが、側方からのサポートを追加する目的で体幹サポートインナーパッドを用います。

体幹サポートインナーパッドは、右記のように4個セットになっています。調節スリングシートにインナーパッドを取り付けて、その上から背シートを取り付けて使用します。

インナーパッドには、ロータイプとハイタイプがあります。ハイタイプは、裏面のマジック（カタ）の色がグレーになります。（ロータイプは黒です。）

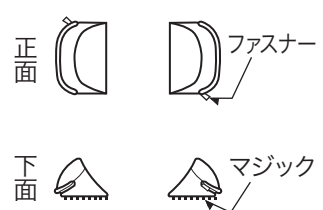
体幹パッド（2個）

- 左、右別
- ファスナーがついている方が外側、先端が細い方が上側です。
- マジック面がスリングシート側です。



骨盤パッド（2個）

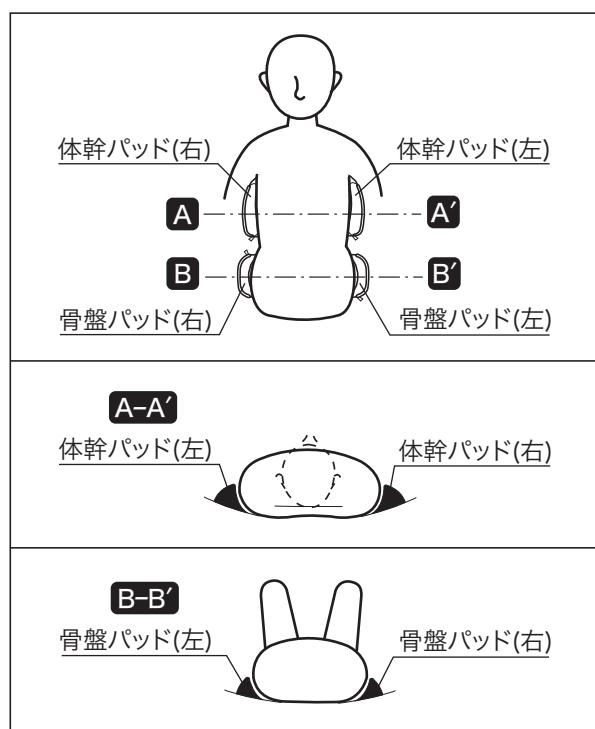
- 左、右共通
- ファスナーがついている方が外側です。
- マジック面がスリングシート側です。



〈インナーパッドの取り付け方法〉

1 調節スリングシートの張り調節を先におこないます。

2 体幹パッド、骨盤パッドを本人の状況・体型に合わせて、またサポートの方向に配慮して調節スリングシートに取り付けます。



体幹パッド

- 側弯などの影響で一方向に体が傾く場合などには、取り付け位置・高さが左右非対称になることもあります。
- ろっ骨下部から胸郭の重みを受け止めるように体幹部の側方をサポートし、体幹部の横倒れや水平面方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと胸郭とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

骨盤パッド

- 骨盤部の中央あたりの高さで、骨盤の傾きなどにも注意して、骨盤部からの横倒れや水平方向のころがりを防ぐよう、調節スリングシートと骨盤部とのくさび状の隙間を埋めるように取り付けます。

3 必要に応じてインナーパッドの形状を変更調節します。

- パッドはファスナー式になっています。必要に応じ、中のクッションを取り出し、クッションを削るなどして形状の調整をしてください。



- 折りたたみおよび開き操作のときは各部が連動して動きます。指などをはさまないように注意して操作をおこなってください。
- 周辺に小さなお子様がいるときは、特に注意してください。
- 傾斜や段差がある不安定な場所では作業をおこなわないでください。
- 折りたたみおよび開き操作時は床面等を傷つけることがありますので十分注意して取り扱ってください。

折りたたみ方

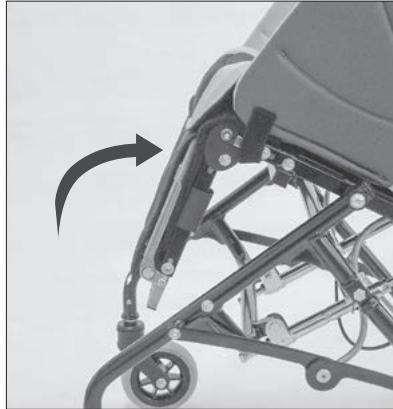
1



フットブレーキ(左・右)をかけてください。

必ず手順に従って折りたたみ操作をおこなってください！
手順を誤るとコンパクトに折りたためなくなります。

2



フットサポートをたたんでください。



手ばさみ注意！

3



ティルトレバーを握り、止まる場所でティルトを起こしてください。



手ばさみ注意！

開き方

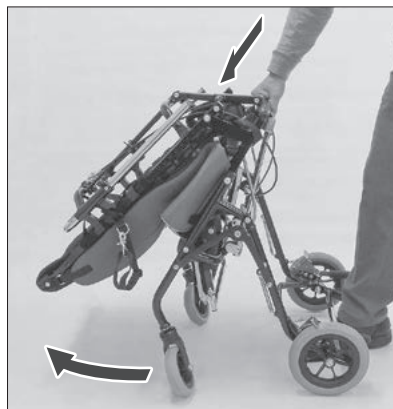
1



開き防止ベルトを外してください。

必ず手順に従って開き操作をおこなってください！
手順を誤ると部品がフレームに引っかかるなどして、開かなくなることがあります。

2



前足と後ろ足を開いてください。



手ばさみ注意！

3



背フレームを開いてください。背折りたたみロックが「カチッ」と音がして自動的にロックされます。



手ばさみ注意！



- 使用前にはロックがかかっていることを確認してください。
- ③の手順において、ティルトレバーは決して握らないでください。部品がフレームにぶつかって開かなくなることがあります。



- 持ち運びや立てかけておく際は、開き防止ベルトをしっかりとめて、レバースナップ金具がDリングに確実にかかっていることを確認してください。
- 開き防止ベルトのとめ方が不適切なまま持ち運んだりすると、フレームが不用意に開いてしまい、指や手をはさむ・周辺の人や物にぶつかるなどのおそれがあり危険です。
- 開き防止ベルトの取り扱いについては、9ページを参照してください。

4

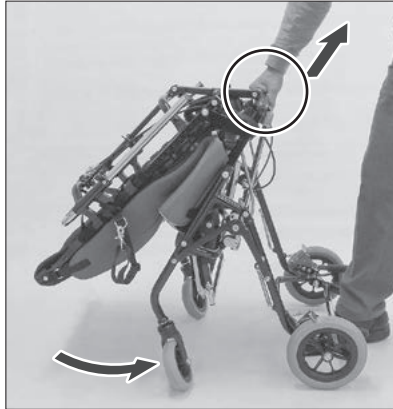


背折りたたみロックを解除して、背フレームをたたんでください。
サイドガードは内側へ折り込んでください。



手ばさみ注意！

5



座面後部の丸パイプを持って斜め後方へ(矢印の方向)引き上げてください。下フレーム(前足)が後方にたたまれます。



手ばさみ注意！

6



開き防止ベルト
背フレームについている、開き防止ベルトで背・後足を固定してください。

4



ティルトレバーを握り、背座フレームを倒してください。

5



フットサポートを開いてください。



手ばさみ注意！

6

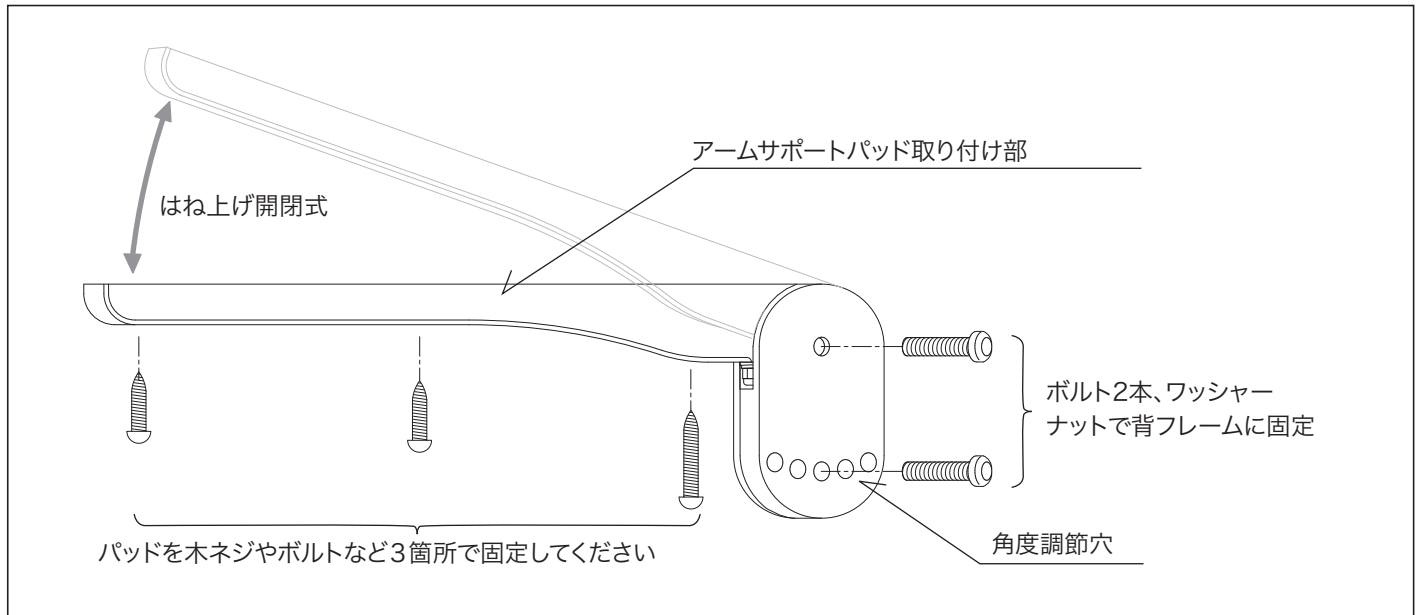


開き防止ベルトの金具がぶらぶらしないようにDリングにかけてください。
ティルトリクライニングを適切な角度に調節してご使用ください。また、乗り降りの際は、ブレーキをかけてください。

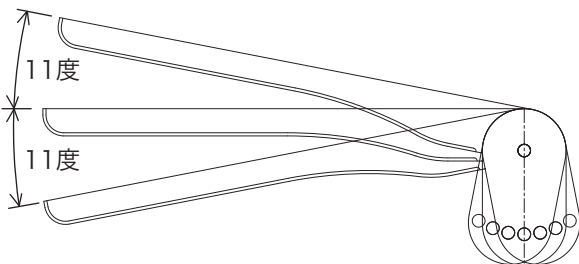
アームサポート金具の取り扱い

当社製の車いすや座位保持装置に取り付けることができる、はね上げ開閉式のアームサポート金具です。

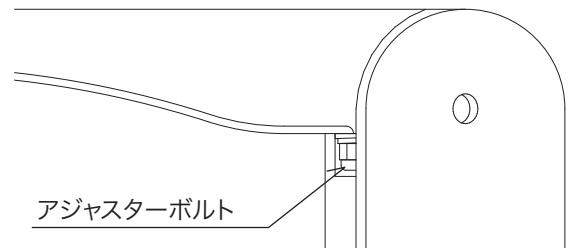
側方から乗り降りする際には、アームサポートをはね上げることにより移乗の負担を軽減することができます。また、背フレームの起こし角度に応じて角度設定も調節できます。



■角度調節穴



下側のボルト位置を差し替えると、中心から前後2段階ずつ11度刻みで角度が変更できます。



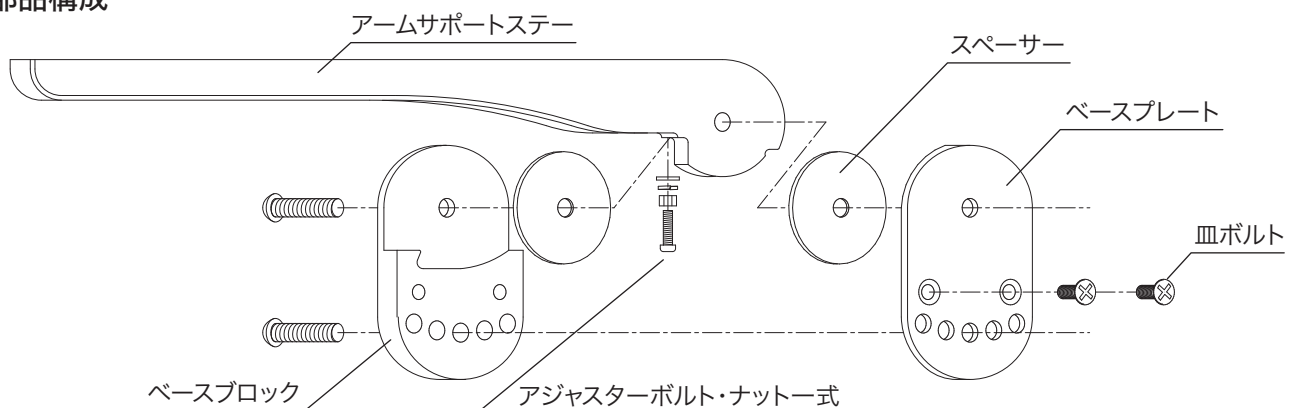
アジャスターボルトは基本的に左右の平行を調整するためのものですが、角度の微調整も可能です。

※この部分に指やものがはさまらないように注意してください。



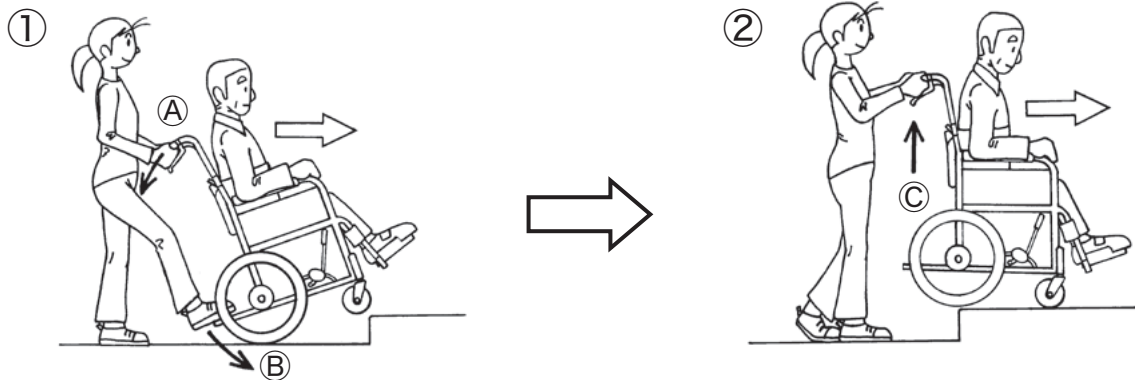
- 必ずアームサポートパッド(肘あて)を取り付けて使用してください。
金具のみで使用すると、アームサポートステーの先端などでけがを負うおそれがあり危険です。

■部品構成



車いすの取り扱い

段差越えの仕方



①前輪が段差の直前にきたら

① 両手で押し手グリップを手前にひきながら…

② ティッピングバーをななめ前方に踏み込むと前輪が上がるのでそのまま前方に進み、前輪を段上にのせます。

②そのまま進んで後輪が段差の直前にきたら

③ 押し手グリップを持ち上げて後輪を浮かせ、そのまま前方に進み後輪を段上にのせます。



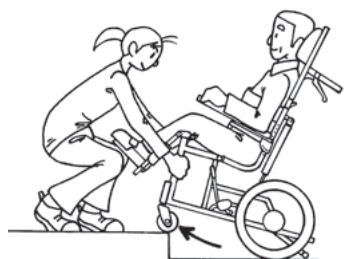
●絶対に勢いをつけて乗り越えようとししないでください！
(前方転倒や乗っている方の転落、車いすの破損などのおそれがあります。)

❌ 押し手グリップだけでの前輪上げは禁止!

後方からの段差越え操作がむずかしい場合は車体前方を直接持ち上げる



ティッピングバーを利用せずに押し手だけの操作で無理に前輪を上げようとすると車いすが破損するおそれがあります。必ず押し手とティッピングバーの両方を利用してください。



リクライニング車などで後輪位置がより後方にある場合は、押し手とティッピングバーの操作での段差越えは困難な場合があり、無理をすると車いすが破損することがあります。そのような場合は車体前方を持ち上げて段差を乗り越えてください。

坂道での操作について

登り方



登り坂

下り方



下り坂

坂道の登り降りでは、車いすの操作を特に慎重におこなってください。登り坂は前向きで、下り坂は図の様に後ろ向きに進んでください。特に下るときに前向きに進むと、前方に転倒したり、スピードが出過ぎて止まらなくなったりする恐れがあり大変危険です。



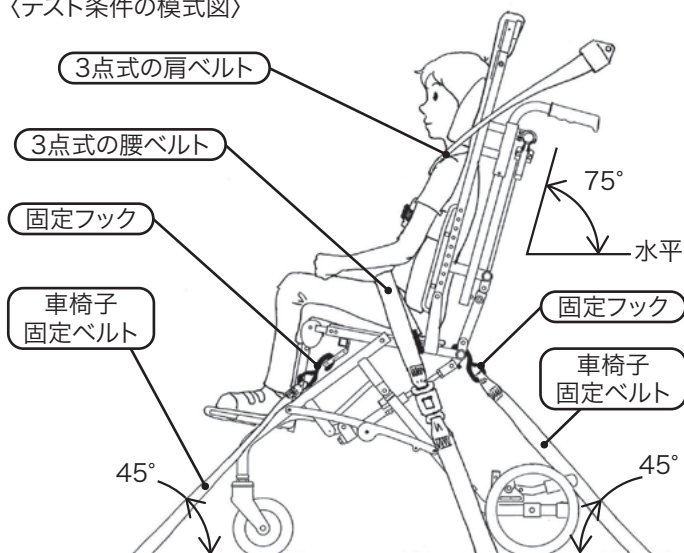
●押し手グリップに体重をかけすぎると前輪が持ち上がり後方へ転倒することがあります。

車載使用(走行する車両において座席として使用)についてのご注意

- ① 本車椅子は国際規格による衝突安全テストである「ISO7176-19AnnexA」に適合しています。これによって、本車椅子がテスト時に採用した使用状態※1(右図参照)であれば、ISOがモデル化した衝突事故で搭乗者が受けるダメージはISOの基準以下※2であり、かつ車椅子は、深刻な二次被害が生じる壊れ方をしない※3ことが確認されています。

※1 (右図参照) 3点式の腰ベルト:中央部が胴と脚の境目で身体に密着し、両端側が床に対して約45°の角度で後方に引かれている。/3点式の肩ベルト:片方の肩の中央付近から対角線状に胸部に密着し、反対側の腰の近くで3点式の腰ベルトに接続している。/車椅子固定ベルト:前後の固定フックが所定の位置に掛けられ、それぞれが床に対して約45°の角度でハの字状に引かれている。/バックサポートの角度:水平からの起き角で75°。

〈テスト条件の模式図〉



※2 急ブレーキ中の搭乗者の頭の移動量が基準値以下である。/ 急ブレーキ中にずれた車椅子が搭乗者に大きな水平荷重を加える可能性は低い。/ 停止後にバックサポートの角度は変化しておらず、搭乗者は前後左右に大きく傾くことなく車椅子に座っている。
※3 鋭いエッジができる割れ方をしない。/ 搭乗者はシートベルトを外すだけで壊れた車椅子から容易に離れることができる。/ 壊れた車椅子から車載時固定用ベルトを容易に外すことができる。

- ② 本車椅子が備える車載時固定用フック受け金具やフック受けケージなどの車載使用を補助する構造は、すべての車載使用の安全を保障するものではありません。
- ③ 本車椅子に装備された胸ベルト、腰ベルト、肩ベルト等は、通常使用での姿勢保持用のものであり、車両が走行する際の様々な加減速、路面の凹凸、カーブでの揺れなどに対して使用者の身体を完全に支えるものではありません。



- 本車椅子が衝突安全テストに適合した条件に近い使用状態であっても、全てのアクシデントに対応できるものではありません。衝突事故を含む実際のアクシデントは、ISOがモデル化した単純な正面衝突ではない場合が多数であり、本製品の車載安全性には限界があります。
- 車載使用については、搭乗者もしくは保護者(入所施設の責任者など含む)の責任において、実際のドライブ中にやむを得ず急ブレーキや急ハンドルなどの運転操作がなされた場合や、万が一の衝突事故が起こった場合のことを十分に考慮したうえで実施してください。

■車載使用時の車椅子の固定方法

- ① 車椅子を福祉車両の所定の位置に合わせたら、車椅子のブレーキをかけてください。
- ② 前方左右の固定ベルトのフックは、座フレーム下側に取り付けしたフック受け金具(オプション)に左右それぞれ掛けてください。(写真1)
- ③ 後方左右の固定ベルトは、座フレーム後部の左右にあるフック受けケージの太いパイプ部分にフックを掛けてください。(写真2)ベルトは、できるだけ真後ろに引いてください。(写真3)フックは決して細いケージ枠の部分に掛けないでください。(写真4)。

写真1



前側のフックをフック受け金具に掛ける。

写真2



後側のフックをフック受けケージに掛ける。

写真3



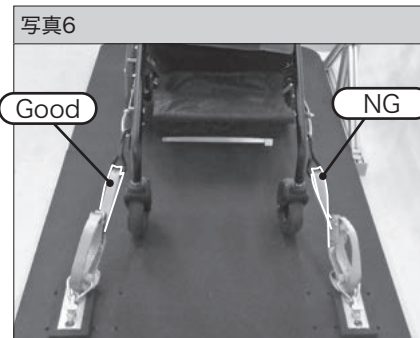
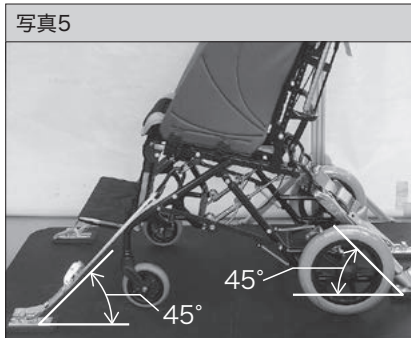
後側の固定ベルトはできるだけ真後ろに引く。

写真4



後側のフックの誤った掛け方

- ④ 固定ベルトの引き方向が調節できる場合は、前後の固定ベルトの床との角度が45°に近くなるようにしてください。(写真5)
- ⑤ 固定ベルトはできるだけ捻じれが少なくなるように掛けてください。一回転以上捻じれている場合は必ず捻じれを戻してください。捻じれて張られた固定ベルトは走行中に緩むことがあります。(写真6)
- ⑥ 固定ベルトは、できるだけ途中のベルト部分が車椅子のフレームや車輪に接触しないようにしてください。走行中に接触箇所がずれてベルトが緩んだり、擦れによってベルトを劣化させてしまうことがあります。
- ⑦ 車椅子を固定したあとは、絶対にティルト角度の設定を動かさないでください。



- 搭乗者の手足や腕、衣服や搭載品などが車椅子や固定ベルトなどに挟まれないように注意してください。
- 指定されている位置以外には固定しないでください。
- 走行前に固定ベルトが捻じれていないか、また確実に固定されていることを確認して下さい。確実に固定されていないと走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなどの重大な事故につながるおそれがあり危険です。

■ (重要) 車両に装備されたシートベルトの装着方法とティルト角の設定について

搭乗者は、車両の取り扱い説明書に従った方法で車両の3点式シートベルト(腰ベルト、肩ベルト)を必ず装着してください。搭乗者が車両に装備されたシートベルトをしていない場合には、急停止の際に搭乗者が車椅子を離れて前へ飛び出すのを阻止できません。

本車椅子はティルトリクライニング機構による姿勢変換機能を備えていますが、車載使用時には図1に示すようにバックサポートが水平からの起こし角で75°~80°に設定されて前を向いている姿勢が理想的です。(本製品は、バックサポートが水平からの起こし角で75°の条件で衝突安全テストに適合しています。)搭乗者の身体的な事情でこのような角度まで起こせない場合は、できる範囲でティルト角を起こしてください。

但し、座フレームが水平よりも前傾する設定にはしないでください。

図1のような前を向いた姿勢や、車両の取り扱い説明書にあるような標準的なシートベルトの装着が難しい場合には、急ブレーキがかけられた時に搭乗者に起こる慣性的な動きを少しでも車両のシートベルトで受け止められるように努めてください。

図2に示すようなバックサポートを倒した設定になっている場合、急ブレーキ時には上半身がシートベルトの内側を滑り抜けて前方へずれやすくなります。臀部が座面に押し当たるので全身が滑り抜けて前に飛び出すことは防がれますが、上半身が圧縮されるようなダメージを受けるリスクが高くなります。

図1のように車両のシートベルトが機能している場合、搭乗者の上半身の飛び出しは肩ベルトがほぼ真後ろに引き止め、下半身の前への飛び出しは腰ベルトが斜め下に引き止めて座面に押さえつける動きに変えます。車椅子は、この座面に下向きにかかる荷重に耐えることで急減速時の衝撃を受け止めます。本車椅子は、アクシデントに際して、車両のシートベルトなしに搭乗者を受け止めることはできません。

図1

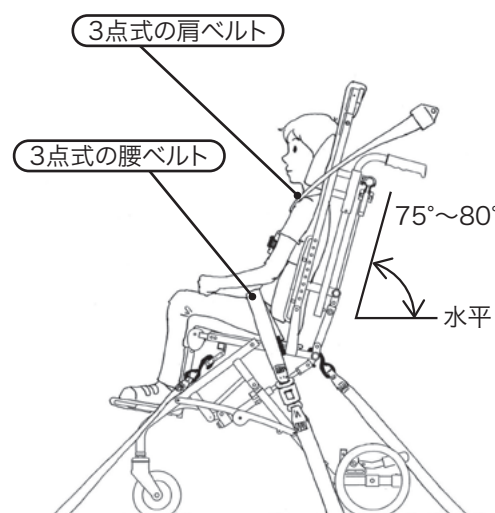
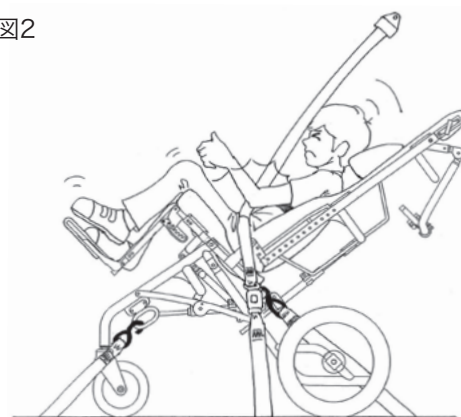


図2



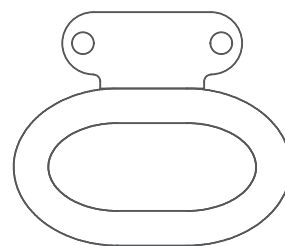
- 車椅子での乗降は必ず介助者が行ってください。
- 安全のため車椅子本体に取り付けられている(処方された)ベルト類と車両の3点式シートベルトはどちらも必ず装着してください。
- 発進前に車椅子が確実に固定されていることを再確認してください。

車載時固定用フック受け金具の取り扱いについて

車載時固定用フック受け金具はRVpocket IIr専用のオプションで、車載時に固定ベルトのフックをかけることができます。フック受け金具を取り付ける場合は、座フレームにある取付け穴を使用してください。

■セット内容

- ・フック受け金具本体：＜2 個＞
- ・六角穴付きボルト M6×30：＜4 本＞（LL サイズは M6×35）
- （緩み止め剤プレコート）
- ・ワッシャー φ6×φ13×1.0：＜4 個＞（LL サイズはφ6×φ13×2.0）
- ・袋 U ナット M6：＜4 個＞
- ・固定位置マークのシール：＜4 枚＞



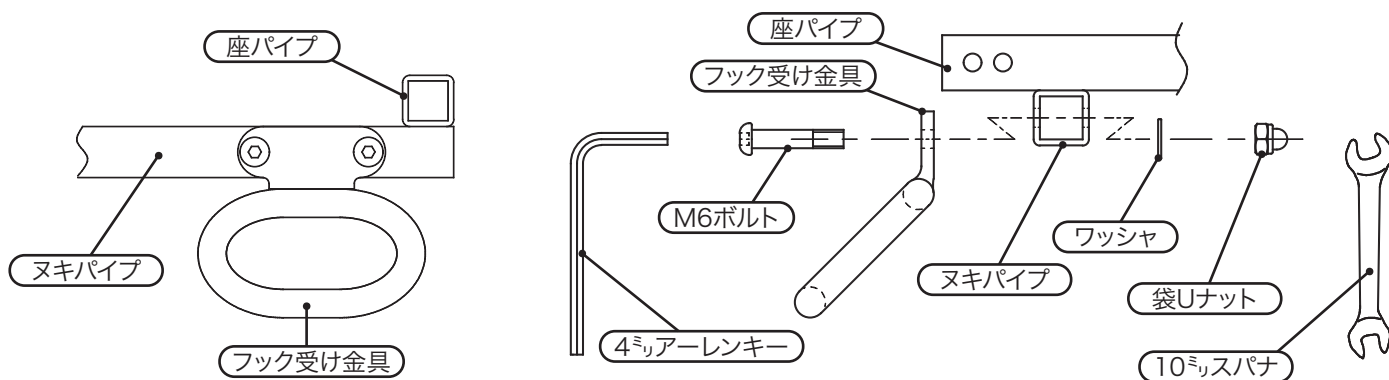
＜フック受け金具本体＞

■取り付け手順

取り付けには 4mm のアーレンキーと 10mm のスパナを使用します。

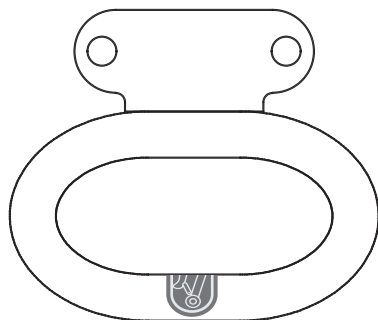
下図のように、座パイプの前方下側にあるヌキパイプの前面にフック受け金具をセットし、前面側から M6 ボルトを差し込んでください。ヌキパイプの後面側で、ワッシャー、袋 U ナットの順に手締めで組んだ後、工具を使ってしっかり締めこんでください。

組み付けたら、トルクレンチを用いて締め付けトルク 5.2(N・m)に達していることを確認してください。

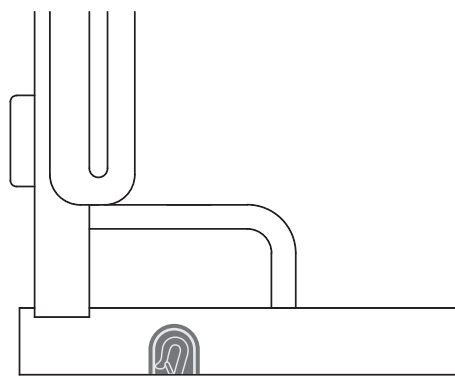


■固定位置マークシール貼り付け箇所

フック受け金具を取り付けたら、シールを下図の指定位置にしたがって、必ず貼ってください。貼る前には余分なホコリや水気、油分がないように表面を拭いてください。



前フレームのフック受け金具に左右で2箇所貼り付け



後座フレームの丸パイプに左右で2箇所貼り付け



- 使用前には、確実に取り付けられていることを確認して下さい。
- フック受け金具としての目的以外での使用は決しておこなわないでください。
- フック受け金具を後付けする場合は、必ず取扱業者が適切なボルトナットとトルク管理のもとで取り付け作業をおこなってください。決して、ご利用者様で取り付けをしないようお願いいたします。
- フック受け金具のボルトナットやその他本体の締結具合は、定期的にチェックしてください。
ねじのゆるみや脱落などが起因して、走行中に車椅子が動きだし、転倒したり車椅子が破損するなど重大な事故につながるおそれがあります。

仕 様

	単位	Sサイズ	Mサイズ	Lサイズ	LLサイズ
背幅／座幅	mm	360／363	360／363	385／388	425／428
バックサポート高 (A)	mm	650～710	700～760	770～830	820※1
座シート奥行き (B)	mm	185～245	230～310	280～380	350～430
フットサポート高 (C)	mm	85～265	225～345	245～385	295～435
車体寸法 (W×D×H)	mm	540×740×1100	540×740×1140	565×770×1230	660×860×1280
支点高 (E)	mm	464	464	484	482
折りたたみ寸法 (W×D×H)	mm	540×375×745	540×420×770	565×455×820	650×570×860
ティルト角度	度	85～40			
基本重量 (シート重量含む)	kg	12.1	13.1	14.1	約16.6
調節スリングシート	材質	ナイロン100%			
シートユニット	材質	ポリエステル100% (メッシュ、ニット、マジック等)			
対応身長	cm	約90～110	約110～130	約120～140	約145～165

■上記の寸法表は、基本的な装備、シートユニットでの計測値であり、部品の構成によって重量や寸法などが異なる場合があります。

※1 LLサイズには、背高調節機構はありません。

お手入れ・メンテナンス

- フレームは絶対に水をかけて洗わないでください。フレームなどの各部汚れは固絞りした布で拭きとってください。

※フレーム塗装部分は、たわしなどで強くこすると傷が付き、塗装が剥がれることがあります。

※特にメカニカルロックに水がかかると故障の原因になります。水に濡れたときは乾いた布ですみやかに水気を拭きとってください。

- 可動部分の動きが悪くなった場合には、その部分のゴミやホコリなどを取り除き、潤滑油等を適量してください。

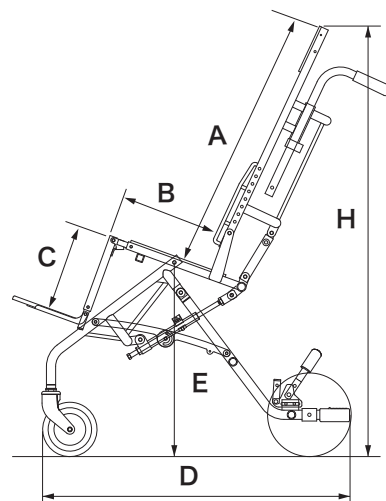
※メカニカルロックやベアリングには注油しないでください。故障の原因になります。

- シートを洗うときは、マジックテープをすべて相手側に接着した状態できれいに折りたたみ、軽く押し洗うるか、洗濯ネットに入れるなどして、生地を傷めにくい方法で洗ってください。洗ったあとは、陰干しして乾燥させてください。

- インナーパッド、ヘッドサポートは、ファスナーによる開閉式です。ファスナーを開き、中のクッションを取りだしてからカバーを上記の要領で洗濯してください。

- 調整や修理などは、まず納品された取り扱い業者にご相談ください。

保管するときは、湿度の高い場所や雨が降りかかる場所を避けてください。雨や水のかからない風通しのよい場所で保管してください。雨や水にぬれると、各部品、機構にサビが生じるなどして故障の原因になります。また湿度の高い場所では、シートにカビが生えるなどして生地を損なうばかりでなく、健康に害をおよぼすおそれがあります。



MEMO

Handwriting practice lines consisting of 30 horizontal dashed lines.

Handwriting practice lines consisting of 25 sets of three horizontal dashed lines.

製造・発売元

株式会社 きさく工房

〒811-2126 福岡県糟屋郡宇美町障子岳南5-10-11
TEL 092-932-7600 FAX 092-932-1037
E-mail info@kisakukobo.jp

取り扱い業者・連絡先

2021.05